# 運動疫学ニュースレター

日本運動疫学会
Japanese Association of Exercise Epidemiology

令和５年 12 月７日発行　No.20


## 第 25 回日本運動疫学会学術総会のご報告


第 25 回学術総会大会長／中京大学　重松 良祐


2023 年６月 24 日（土）・25 日（日）に中京大学・名古屋キャンパスにて、「普及と継続」というテーマで開催しました。実行委員会は、実行委員長に片山靖富先生（皇學館大学）、委員に種田行男先生（中京大学）、甲斐久美代先生（日本福祉大学）、香村恵介先生（名城大学）、水上健一先生（中部大学）、畑山知子先生（南山大学）、宮田洋之先生（中京大学）、山根基先生（愛知みずほ大学）で組織し、前回大会長の久保田晃生先生（東海大学）、そして坂井智明先生（名古屋学院大学）に協力者としてご助言・ご支援いただきました。当日の運営には、中京大学の学生や関係者の方々にもご協力いただきました。皆様の的確な対応によって、無事に大会を終えることができました。

１日目の基調講演では岡田真平先生（身体教育医学研究所）に「国内高地プール整備によるアスリート支援の普及・継続戦略」をご講演いただき、アスリート支援事業としての施設が地域住民にも貢献している事例や今後の課題、展望について紹介いただきました。シンポジウム１では「中高年者における地域レベルの身体活動の普及と継続」というテーマで、鎌田真光先生（東京大学大学院）、齋藤義信先生（日本体育大学）、清野諭先生（東京都健康長寿医療センター研究所）、辻大士先生（筑波大学）にご講演いただきました。それぞれ異なる地域での研究成果や課題を提供していただきました。２日目の教育講演では伊藤央二先生（中京大学）に「スポーツツーリズム：スポーツで人を「動かす」仕組みづくり」をご講演いただきました。私（重松）の居住地である三重県でも観光資源を活かしたマラソン大会があり、身体活動推進の普及・継続に繋がっていることを再認識できました。教育講演２では城所哲宏先生（日本体育大学）に「学校現場における介入研究の進め方：研究実現の舞台裏」をご講演いただき、学校現場で質の高い研究を実施するためのヒントをご紹介いただきました。シンポジウム２では「幼児や児童に対する運動の普及と継続を考える」というテーマで、福島教照先生（東京医科大学）、鈴木宏哉先生（順天堂大学）、喜屋武享先生（京都大学大学院）にご講演いただきました。令和４年度体力・運動能力調査では子どもの体力得点が過去最低を記録しました。先生方の研究成果が早く実を結んでくれることを願うところです。プロジェクト研究報告では、笹井浩行先生（東京都健康長寿医療センター研究所）、齋藤義信先生（日本体育大学）、井上茂先生（東京医科大学）、田島敬之先生（東京都立大学大学院）、金居督之先生（金沢大学）の研究報告がなされました。口頭発表が 35 演題、ポスター発表が 18 演題あり、活発な意見交換がなされていました。

本大会の参加者（現地来場者）は 197 名と過去最多だと伺いました。この場をお借りして皆様に御礼申し上げます。来年の総会へ「継続」できることを願っています。

CONTENTS


1. 第 25 回日本運動疫学会学術総会のご報告 …1
2. 第 26 回日本運動疫学会学術総会のご案内 …2
3. 第 8 回運動と健康：分野横断型勉強会の開催報告 …2
4. 日本体力医学会特別大会：シンポジウム開催のご報告 …2
5. 運動疫学セミナー開催報告 ……3
6. 運動疫学セミナーに参加して……3
7. 萩裕美子先生のご逝去を悼んで ……4
8. Blair 先生の思い出 ……4

## 第 26 回日本運動疫学会学術総会のご案内

第 26 回学術総会大会長／（公財）身体教育医学研究所　岡田 真平

第 26 回日本運動疫学会学術総会を佐久大学（長野県佐久市）で開催します。会期は 2024 年 6 月 29 日（土）と 30 日（日）で、前後の日程にも関連プログラムの開催を模索中です。向夏の東信州への訪問予定の確保をぜひお願いします。

本大会は、実行委員長に佐久大学の朴相俊（パク・サンジュン）教授、実行委員として力のある先生方に参画していただき、魅力的なプログラムとなるよう鋭意準備を進めてまいります。今回も、大変盛況だった第 25 回と同様、現地開催を予定しています。

総会テーマは「社会が求める運動疫学」としました。学会員の皆様それぞれの立場で、日々の活動を通して「社会から求められている何か」を感じていらっしゃると思います。研究活動・成果と社会からの要請との両立・ズレ・葛藤など…様々あるかと思いますが、このテーマを軸に、皆さんとともに深く考え、議論できる機会にしたいと思っています。皆様のご参加・ご発表を心よりお待ちしています。

## 第 8 回運動と健康：分野横断型勉強会の開催報告

学術委員会委員／横浜市立大学　桑原 恵介

日本体力医学会特別大会の前日、2023 年 9 月 16 日に「第８回運動と健康：分野横断型勉強会」を早稲田大学で開催しました。現地開催は実に４年ぶりです。今回は「加速度計で身体活動を測ってみよう！」と題し、大規模研究において応用が増えつつある加速度計による身体活動計測をテーマにしました。計測の基礎から分析の実際まで、３名の専門家にご講演いただきました。

最初に田中茂穂先生（女子栄養大学）から、「加速度計から身体活動を評価する上で知っておきたいこと」をお話しいただきました。加速度計の仕組みや測定機種による違いとその背景要因、加速度計で捉えにくい活動（例：自転車）やわからないこと（例：ドメイン）、論文に記載すべき事項など、初心者には必聴の内容でした。次に、辻本健彦先生（島根大学）からは「エクセルマクロを使った加速度計データの分析方法」について、ご紹介がありました。分析する際に迷う点を取り上げつつ、分析手順の実際をお示しいただきました。最後に北濃成樹先生（明治安田厚生事業団体力医学研究所）からは、「R で加速度計データを集計してみたら人生変わった話」として、R による加速度計データの集計の実際とそのメリットについて、わかりやすくご解説いただきました。事前質問を含めて参加者の疑問に対して３名の先生がたから丁寧な回答があり、参加者の理解度が深まった様子でした。

当日は現地に 23 名、Web 上は 62 名の参加を得ました。ハイブリッド開催は参加費管理や当日の運営が複雑化する課題があります。しかし、大きな利点として遠方の方や日本運動疫学会あるいは日本体力医学会の非会員の方が参加しやすいことを実感できました。第６回分野横断型勉強会から、学術委員会委員長 原田和弘先生（神戸大学）、同委員 中田由夫先生（筑波大学）、天笠志保先生（帝京大学）、筆者で企画を進めてきましたが、次回から新体制になります。新たなメンバーによる今後の分野横断型勉強会にご期待ください。

## 日本体力医学会特別大会－2023 東京シンポジウム－におけるシンポジウム開催のご報告

学術委員会委員長／神戸大学大学院　原田 和弘

学術委員会では、運動疫学研究の成果を、体力医学会会員に発信・相互作用し、連携・相互発展を図ることを目指した企画を行っています。その一環として学術委員会では、日本体力医学会特別大会－ 2023 東京シンポジウム－（2023 年 9 月 17 日、早稲田大学）において「人生 100 年時代の多様化するニーズに寄与する運動疫学研究」（11:10 ～ 12:10、大隈記念講堂小講堂）を開催しました。

このシンポジウムは、人生 100 年時代にますます顕在化するであろう４つの課題（フレイル・サルコペニア、メンタルヘルス、社会的つながり、デジタル・ディバイド）に焦点を当て、これらの課題解決に果たす身体活動・運動の役割に関する最新知見や今後の展望について議論することをねらいとして企画しました。これら４つの課題のうち、フレイル・サルコペニアについては医歯薬基盤・健康・栄養研究所の小野玲先生から、メンタルヘルスについては東京医科大学の菊池宏幸先生から、社会的つながりについては帝京大学の金森悟先生から、また、デジタル・ディバイドについては九州大学の岸本裕歩先生からお話いただきました。その後、会場の先生方と議論を行いました。

例年とは異なり、今年度の大会は１日限りのものでしたが、結果的に約 110 名（原田の目視確認による概数）の方にご参加いただけました。また、演者や会場の先生方のご高配により、多様な観点から充実した議論が行われました。シンポジウム終了後も、一部の演者と会場の先生方との間では、熱心に議論が行われている様子でした。これらの反響から、このテーマに対する関心の高さがうかがえました。

学術委員会では、次回の体力医学会（2024 年 9 月 2 日～ 4 日：佐賀大学）でもシンポジウムの企画提案を行う予定です。次回以降も引き続き、多くの先生方にご参加頂けましたら幸いです。

# 第 22 回運動疫学セミナー開催報告

セミナー委員会委員長／東北大学　門間 陽樹

第 22 回運動疫学セミナーが 2023 年 9 月 8 日（金）～ 9 月 10 日（日）の日程で帝京大学箱根セミナーハウス（神奈川）にて開催されました。実に 4 年振りの開催でした。開催当日は関東に台風が直撃する事態にも見舞われ、定刻に間に合わなかった参加者もわずかにいらっしゃいましたが、無事にセミナーを開始できたときには、とてもホッとしたことを覚えています。

今回の運動疫学セミナーでは、講義を受けながら研究デザインを意識した研究計画の立案を目指すベーシック（講義）コースと、より実践的に社会問題の解決を図る課題を設定し、研究助成の獲得や国際誌でのアクセプトが期待できそうな研究計画の立案を目指すアドバンス（演習）コースを準備しておりました。しかし、受講者全員（32 名）がベーシック（講義）コースでの参加となり、この点からもセミナーを中断していた影響の大きさを実感しました。

今回のセミナーでは、これまでよりも現地時でのグループワークの時間を確保するため、事前学習用に講義のオンライン動画を作成する試みを行いました。とても好評だったようです。そして、なんとその講義動画を学会員に向けて限定公開（無料）する予定でおります！ぜひ公開を楽しみにお待ちください。

最後に、第 22 回運動疫学セミナーを無事に開催できたのは、セミナー委員の先生方を始め、理事長の岡先生、副理事長の小熊先生、中田先生のご支援・ご協力があったからこそです。ここに感謝申し上げます。もちろん、参加者の皆さまにおかれましても、積極的に参加していただき、一緒にセミナーを作っていただきまして改めて感謝申し上げます。ぜひ、来年はアドバンスコースでお会いしましょう。そして、まだ参加したことがない方々は、ぜひ平田さんの体験談を読んでみてください。きっと「来年こそは！」と思えるはずです。平田さん、素敵な体験談をどうぞよろしくお願いします。

# 第 22 回運動疫学セミナーに参加して

慶應義塾大学　平田 昂大

私は、社会人大学院生として修士課程に在籍していた 2016 年に日本運動疫学会に入会しました。当時から運動疫学セミナーに興味はありましたが、仕事やセミナーの中断もあり、これまで参加が叶いませんでした。今回、博士課程への進学や転職、セミナーの再開もあって念願の運動疫学セミナーに参加できました。

今回のセミナーでは、講義動画による事前学習、講義、グループワーク、ナイトセミナーがあり、大学生、大学院生、大学の教職員、医療系の実務者など様々な参加者がいました。事前学習では、運動疫学に関わる重要な内容を体系的に、自分のペースで学習することができ、セミナー前に学習したことで、グループワークをするための目線合わせになったのではないかと思います。セミナーでは、３日間を通して講義とグループワークがありました。研究デザイン、バイアスに関する講義は、自身の研究を進めるうえで重要な学びとなりました。グループワークでは、5 ～ 6 人のグループで一から研究計画を立案し、最終日に発表（のちに報告書を作成）しました。グループでの研究テーマ、研究デザイン、方法についての話し合い、発表での他グループや先生方との侃々諤々の議論を通して、実際に研究を遂行する時に直面するだろう困難や課題を体験できました。夕食以降は「ナイトセミナー」として、先生方、参加者の方々と交流できる時間が（望めば望むだけ）ありました。学会等ではできないディープな話や研究計画の相談など、どんな内容でも気軽に誰とでも意見交換ができました。この環境もセミナーの魅力の一つだと思います。

セミナー参加に際して、スケジュール調整などの難しさや不安がありましたが、実際に参加してみて、想像以上の学びと達成感を得ることができました。改めて、本セミナーを企画・運営してくださった先生方、苦楽を共にしたグループメンバー・参加者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 萩裕美子先生のご逝去を悼んで

東海大学　久保田 晃生

萩裕美子先生は、2023 年 4 月 19 日に享年 64 歳でご逝去されました。萩先生は、皆様にも同感を頂けると思いますが明快闊達な先生でした。新型コロナウイルス感染症拡大前に病気を患い、ここ数年闘病しながらの生活でした。しかし、会合等がオンラインであったため、パソコンの画面越しで、萩先生と活動をされていた方もいらしたかと思います。ご逝去の直前まで、オンラインの授業やメールでお仕事をされていましたので、突然の訃報に驚かれた方も多いかと思います。

故　萩 裕美子 先生

萩先生は、1958 年 11 月 19 日に東京都台東区にお生まれになりました。東京学芸大学を卒業後、女子栄養大学で博士号を取得されました。学位論文は、「中高年者の健康と身体活動に関する研究：質問紙法の評価」で運動疫学に関係する内容でした。その後、東京 YMCA 社会体育専門学校、鹿屋体育大学、2009 年から東海大学体育学部に教授として赴任されました。東海大学では体育学研究科長も務め、2021 年からスタートした博士課程の設立に、ご尽力を注いで来られました。研究業績は、著書や論文で残しておりますが、長年、どのような仕掛けと仕組みをつくれば、より多くの方々が、楽しんで運動ができるのかを研究のテーマとしていました。

本学会は、運動疫学研究会からの関わりで、広報委員長、理事、顧問といった要職をお務めになりました。他にも会長や理事を務めていた学会が数多くありました。生前、萩先生からは、現場での運動指導や支援の場面では、多面的な情報からのアプローチが必要であるため、多くの学会で情報を得て、勉強しているとお聞きしました。大変勉強熱心な先生でした。

個人的なことになりますが、本当に長い付き合いとなる萩先生とご一緒に、第 24 回学術総会を東海大学で開催できたこと大変光栄でした。

天に召された萩裕美子先生の平安をお祈りいたします。

## Blair 先生の思い出

早稲田大学　澤田 亨

2023 年 10 月、Steven N. Blair 先生が亡くなられたとの連絡がありました。84 歳でした。安らかな眠りにつかれますようお祈りいたします。

Blair 先生は運動疫学研究のパイオニアの一人です。第一世代のパイオニアはロンドンバスの研究で有名な Jerry Morris 先生（享年 99 歳）と、ハーバード大学男子卒業生研究で有名な Ralph S. Paffenbarger, JR. 先生（享年 84 歳）です。そして、Paffenbarger 先生の指導を受けながら運動疫学研究をけん引したのが Blair 先生です（参照：運動疫学研究 18 巻 2 号）。そして、本年、第二世代のパイオニアの一人を失ったことになります。

Blair先生（左端）と岡先生（理事長）をはじめとする多くの先生方と一緒に夕食（2017年）

1999 年、シアトルで開催された ACSM で、Blair 先生に研究指導してくださいと（恐る恐る）お願いしました。返事は「Sure」でした。当時は Zoom などの便利なものはなく、英語が不自由な私はメールや電話で指導を受けることができませんでした。そのため、2000 年にパソコンを持って Blair 先生の自宅を（恐る恐る）訪ねて指導を受けました（詳細はニュースレター 6 号に記載）。「ここはこうするよう Paff から習ったから、Susumu もそうするように」と指導されたことがとても印象的でした。その後は、毎年 ACSM の会場やホテルで指導を受けることになりました。このため、ACSM で Blair 先生に指導していただいた研究を発表することが年中行事となりました。いつも Blair 先生はやさしく、丁寧に指導してくれました。また、いつもほめてくれ、また、勇気づけてくれました。

私は、いつもほめて、勇気づけてくれる先生を失いました。とても悲しく思いますが、今度は私の番だと思い、いつもほめて、勇気づけられる指導者を目指して、Blair 先生に恩返ししたいと考えています。

日本運動疫学会の最新情報は公式ホームページを確認してください。公式 HP：http://jaee.jp

・会員の投稿論文を募集しています。

・会員の運動疫学研究を支援しています（セミナー、勉強会、プロジェクト研究）。

・新規会員を随時募集しています。

発行：日本運動疫学会
編集：日本運動疫学会 広報委員会
日本運動疫学会事務局
〒 359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15
早稲田大学スポーツ科学学術院内
E-mail : jaee.info@gmail.com